算数	第３学年	安芸太田町立戸河内小学校	指導者　俵屋　由紀恵

単元名

「あまりのあるわり算」 ～グループ分けをしよう～

本単元で育成する資質・能力　**主体性・協働性**

１　日時　　平成 30 年６月 29 日（金）５校時　13：20～14：05

２　学年　　第３学年　男子３名　女子２名　　計５名

３　単元について

【単元観】

本単元は，学習指導要領「Ａ　数と計算(４)除法の意味について理解し，それを用いることができるようにする。」を受けて設定されており，その内容を具現化するものである。除法の意味と，乗法九九1回適用してできる除法計算（あまりのない場合）については，第4単元で学習している。本単元では，その発展として乗法九九を1回適用してできる除法で，余りのある場合の計算の意味と計算方法につて学習する。また，答えの確かめ方，余りのある場合とない場合の除法を統一的に把握したうえで除数と余りの大きさを比較することを扱い，除法の性質についての基本的な理解を図る。

【児童観】

本学級の児童は,「わり算」の学習で，わり算はかけ算を使うことで計算できることを理解している。問題場面の把握では，具体物を操作したり，簡単な図をかいたりすることでわり算の場面を具体的にイメージすることができた。自力解決の場面では，一人一人が自分の考えを持ち，ノートにわかりやすくまとめることが徐々にできるようになってきた。しかし，３年生のまとめとして行われた標準学力調査において，基礎的な内容の正答率が 89.3%に対して，活用問題正答率は 52.５％である。算数の学習には意欲的に取り組んでいるが，既習事項や基礎的な内容を活用して，新たな考えを導き出す場面では，学習が受け身になり，自分の考えをもてないこともある。図などを示しながら，自分の考えを他者に言葉で説明することに苦手を感じている児童が多い。 図に表して考える問題に関しては，わり算の単元でも取り組んだが、問題の構造を的確に図で表現できる力がついている児童はまだ少ない。

【指導観】

指導に当たっては,既習のわり切れる除法計算をもとにわり切れず余りの出る場合があることを知らせ，その答えの求め方を考えさせていく。その際，除法の導入時と同時に，半具体物の操作や絵・図で表現することをもとにして，わり算の余りの意味や商，除数，被除数の関係をおさえたい。余りと除数の関係を捉えることや，余りのある除法の確かめ方を理解することを通して，余りがある場合でもない場合でも除法の計算の意味は同様であることを十分に捉えさせたい。また，既習事項と関連させて考えることや，自分なりの考え方や解き方を図や式，言葉で説明するようにさせる。さらに，友達の考えと自分の考えを比較し，共通点や相違点に気付き学習を深めさせたい。間接学習の際にはリーダーを中心に自分たちで学習を進めることができるようにする。

また，自分の考えを説明する際は，図や式を用いて根拠を示しながら説明するようにさせる。聞く側は，自分の考えとの共通点や相違点を意識しながら聞くようにさせる。お互いの考えを分かりやすく伝

え合い，共通点や相違点を比較する中でお互いの考え方のよさを見付けたり，新たな知識を獲得したりすることができると考える。お互いの考えを伝え学び合う場を工夫することは，本校の研究主題と大きく関わるものである。

【本単元における育成したい資質・能力】 主体性 協働性

資質・能力の育成にあたっては，単元の導入で学習のゴールをつかませることで，問題を解決するための学習する意欲を高め，主体的に取り組む力を育成していく。一人一人が問題について考えたり，自分の考えを友達に伝えたりする必然性のある場を仕組んでいくことで，主体的に学ぶ力を高めるとともに，友達と協働的に課題の解決に向けて取り組む力を伸ばしていくことができると考える。

４　単元の目標

○　わり切れない場合の除法について理解し，除法の意味について理解を深めるとともに，それを用いることができるようにする。

５　評価規準

（１）算数科の単元について

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
① わり切れない場合の除法の意味や計算の仕方について，わり切れる場合の除法を基に，乗法との関連や具体物の操作などからとらえようとしている。	① わり切れる場合とわり切れない場合の除法を統合してとらえ，除法の意味や計算の仕方を具体物や図，式を用いて表現している。	① わり切れない場合の除法の計算ができ，商や余りを求めることができる。	① 余りの意味や余りと除数の大小関係を知り，除法について理解している。

（２）本校でつけたい資質・能力とめざす児童の姿について（※年間を通して見取ることとする）

資質・能力	めざす児童の姿	評価規準
主体性	① 目標をもち，対象に対して自ら働きかけながら粘り強く取り組む。	①課題の解決に向けた方法を選択し，課題に対して積極的に働きかけながら，粘り強く取り組んだりする。
協働性	② 他者と進んで関わり合いながら，協力して活動を進める。	② 異なる意見や他者の考えを受け入れながら，目的に向かって協力して課題を解決し，学習への理解を深めようとする。

６　指導計画（全９時間　　本時７/９）

次	時	学習内容	評価				評価規準
			関	考	技	知	
一	1	**課題の設定** T授業で１～５年生全員でレクリエーションをする。ぜんいんで８１名いる。６グループに分けると何人ずつに分けるといいか。	◎				人数を分けるには，既習のわり算の求め方だけでは解決できないこと，余りの求め方を学習することが必要であることに気付いている。
	2	**情報の収集** １４÷３の答えの見つけ方を考える。 １４÷３＝４余り２となることを知る。 余りの意味を知る。		◎			わり切れない場合の除法の計算の仕方について，既習のわり切れる場合を基に考え，具体物や図，式などを用いて説明している。
	3	**情報の収集** １３÷４の計算について余りと除数の関係を調べる。				◎	余りは除数より小さくすることを理解している。
	4	**情報の収集** 題意をとらえ，立式し答えの見つけ方を考える。 それぞれの考えを発表し答えを確認する。 文章題に取り組む。		◎			わり切れない場合の等分除の計算の仕方を，わり切れる場合の等分除を基に考え，具体物や図，式などを用いて説明している。
	5	**整理・分析** わり切れない場合を含む除法の答えの確かめ方を考える。				◎	わり切れない場合の除法の答えの確かめ方を理解している。

	6	**まとめ・創造・表現** 計算練習と答えの確かめをする。			◎		わり切れない場合の除法の計算ができ，商や余りを求めることができる。
二	7	**情報の収集** 題意をとらえ，立式し，計算して，答えを求める。 計算では５余り３だが，答えを５としてよいか話し合う。 答えは商＋１になることをまとめる。 **情報の収集** 題意をとらえ，立式し，計算して，答えを求める。 計算では７余り２だが，商をそのまま答えとしてよいか，それとも商＋１とすべきか話し合う。 本時			◎		問題場面に応じた，商や余りの処理の仕方を理解している。
三	8	**まとめ・振り返り** 「力をつけるもんだい」に取り組む。			◎		学習内容を適切して，問題を解決することができる
	9	**まとめ・振り返り** 「しあげ」に取り組む。				◎	基本的な学習内容を身につけている。